鉄鋼ニューズ

海外鉄鋼市況の動向：日本鉄鋼輸出組合の調査によると，世界の鉄鋼需給事情は全般的に一般と緩和傾向を深めており，明年の見通しもさらに困難になると見る向きが多くなつている．

米国では，期待された 10 月の上昇への転換はなく，むしろ下降への転機となつた観がある．もちろん薄板，大型構造用鋼，油井用パイプなどの需用はなお強いが，一時にくらべ著しい緩和が見られる．このためルーケンス社に続いて，コロラド・フエーエル・スチール社の厚板価格を 12 弗引下げ，インランド・スチール社も広巾ビームの価格を5弗引下げた．これらはいずれも一般水準より高いプレミアムを削つたわけだが，最近の情勢の変化を反映していることは否定できない．一部では労働者の解雇や操短が行われ，製鋼操業率は 80% を割つた．鉄屑価格は引続き軟化がとまらず 11 月第2週には重量屑で 33 弗となつた．これは主として金融引締めと資本支出の削減を反映したもので，このため消費者の在庫圧縮はもちろん，メーカーも年末金融から一時増大した在庫を削減している．軍拡や政治情勢を別として当面有力な刺戟材料は予想されず，年内はもちろん明年の見通しもさらに困難になろうとみる向きが多い．US スチール社のブロー社長も明年第1四半期の操業率を 70% とみている．

建設，造船，自動車，大型機械などからの根強い需要に支えられている英国の場合も，最近の金融引締め，投資削減政策の強化から，消費者の注文見送り，在庫の食いつぶしが起り，頭打ち傾向が見られるようになつた．とくにブリキ工場の不振は著しく，多数の人員整理が行われ問題化している．欧洲大陸諸国にあつては，フランスは横這い，ベルギーは低調，西独は伸び悩み状態にあるといわれるが，比較的堅調を続けて来たフランスも増産や輸出減，輸入増によつて次第に内需は緩和に向い，しかも輸入製鉄原料に対する 20% の課税が適用されるようになつたため，11月6日以降国内価格の引上げを行わざるを得なかつた．西独でも石炭値上げから鉄鋼値上げ問題が起つており，ベルギーでは鉄鋼業の賃上げが行われた．輸出依存度の高いこれ等大陸諸国は，最近の海外からの買付低減や，米国，日本などの進出によりかなり深刻な影響を受け，棒鋼の輸出価格は大メーカーでも最近は 100 弗（協定最低価格 112 弗）が出現，一部には 98 弗乃至 95 弗のものさえ見られるという．

米国の新ステンレス鋼：最近米国アームコ社では，PH 15-7 MO と呼ばれる新らしいステンレス鋼が製造されたが，これは 1000°C までの空気摩擦熱に堪える新らしい高張力鋼で，今後のミサイル及び航空機用として注目されている．

この新しいステンレス鋼は電気炉鋼塊を連続ストリップで圧延できるので大量生産ができる．またこれまでよりも薄く，巾の広い平たいステンレス鋼板を製造することができる．とくにこの PH 15-7 MO は低コストの高張力鋼であるばかりでなく，他の析出硬化鋼と同じように成型が容易で耐食性も高い．成分はクロム 15%，ニッケル 7%，モリブデン若干を含んでいる．

過去5か年間に航空機とミサイルは，ステンレス鋼使用産業として第2位に上つており，昨年航空機とミサイル用に使われたステンレス鋼は約 7500 万弗に達しており今後5年以内には年間2億弗に達するだろうといわれている．

デミング賞授賞：わが国における品質管理に貢献のあつたものに与えられるデミング賞は，日本科学技術連盟の選考委員会で選考の結果本年度（第7回）は東大教授山内二郎氏に授賞されることに決まり，11月22日東京赤坂プリンス・ホテルにおいて盛大な授賞式が行われ山内氏が授賞された．同時に第3回日経品質管理文献賞として富士通信機「職長のための品質管理」，日本科学技術連盟「現場管理者のための品質管理」，田口玄一氏外「直交配列表による割付法直交配列表の使い方」千葉鎮雄氏「事故原因となる不良部品の一斉交換に関する報文」にそれぞれ授賞された．

八幡新厚板工場の完工披露：八幡製鉄では，11月15日八幡製鉄所に関係方面の来賓約 1000 名の来賓を招き，盛大な新厚板工場の完工披露式を挙行した．今回の新厚板工場披露式は，純酸素転炉など第一次設備，合理化計画全体の完成をも合せているものだが，新厚板工場はとくに意義のあるものとしている．新厚板工場の建設は27年7月に計画され，一時中断したが，29年世銀調査団の来日を機会に再び具体化し，30年 10 月世銀からの借款快定後正式にて建設作業を開始し，32 年6月 29 日試圧延に成功したものである．

新厚板工場は総額 7538 百万円を投入，160 in 4重圧延機などの輸入機械を主体としたもので建家5棟，巾 140m，全長 660m，建家面積 53600m²，月産35千tとなつており，将来は 45 千tを目標としており，これまでの一厚板，二厚板，二中板の3工場を集約合理化するのがねらいとなつている．

千葉砂鉄工業設立：八幡製鉄では東邦電化と提携して砂鉄銑の生産に乗り出す計画を進めていたが，近く共同出資の千葉砂鉄工業会社（仮称）を設立，千葉県船橋市に工場を建設することゝなつた．同社は，千葉県下の豊富な砂鉄資源を活用し，電気炉により砂鉄銑を製造しようとするもので，授権資本 10 億円で発足する．第一期工事は，ロータリー・キルン1基と，これに見合う容量 15,000KVA の大型電気炉1基を建設する．引続き第2期工事に入り，ロータリー・キルン，電気炉の増設と，電気炉の密閉化を行つて副生ガスを採集する計画をもつている．製品は銑鉄年間4万t生産の予定で，将来これを年間 10 万tに引上げる．銑鉄は全量を八幡製鉄および同社の関係会社に供給し，副生ガスはロータリー・キルン用の還元剤として一部を消費するほか，葛飾ガスに売却する方針である．なお原料砂鉄はカネヤス鉱産，東北電化がそれぞれ供給する．